

Title	北村季吟展開催 - 読書週間始まる -
Author(s)	
Citation	静脩 (1964), 1(2): 5-5
Issue Date	1964-11
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2433/36226">http://hdl.handle.net/2433/36226</a>
Right	
Type	Article
Textversion	publisher

Experientia ; Vol. 1—18 (1945—1962)

- 日本レダリー株式会社

Journal of Colloid Science ; Vol. 1—17 (1946—1962)

Journal of Pharmacology and Experimental Therapeutics ;

Vol. 116—136 (1956—1962)

- 日本新薬株式会社

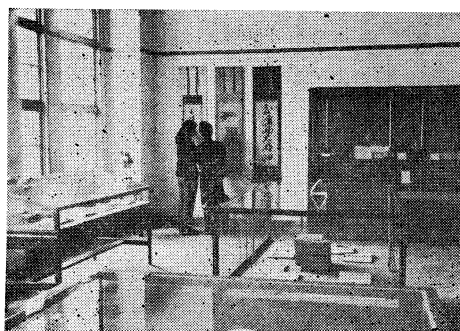
Liebig's Annalen der Chemie ; Bd. 357—628 (1907—1955)

- その他：東大薬学部，京大薬友会，九大薬学部，日本油脂，武田薬工，新三菱重工，台糖フェイザー，三共KK，丸善書店，吉岡書房，U. S. エシアティック・カンパニー，金原書店，京大化学研究所，乙卯研究所，日本ブラッドバンク

## 北村季吟 展 開 催

—読書週間始まる—

本年1月に新玉津島神社（下京区松原通丸丸南入玉津島町）から同神社宝物40点が本館に寄託されたので，これにちなんで，読書週間中の10月28日から3日間「北村季吟展」を催した。陳列品は宝物中の季吟自筆「道の栄」「季吟日記」以下数点と，同神社保管中の宝物後水尾天皇宸筆玉津島大明神神号以下数点のほかに，館蔵の季吟著作刊本等を加えた。「道の栄」は同神社内北村季吟大人遺著刊行会からその第1集



として37年9月に初めて出版された珍籍であり，「季吟日記」も第2集として，38年11月に出版されたものであるが，これは旧重要美術品の指定を受けていたものである。

これらの宝物を本館に寄託されることになったのは，稠密の巷を避けて保管に万全を期したいという文化財保護の意味と，いまひとつには，学術研究の上に貢献したいという神社所在町内の方々の発議によるものである。

季吟が，和歌・俳諧の巨匠であり，それ以上に古典文芸注釈の碩学であったことは改めていうを要しないが，季吟と新玉津島神社の関係について一言する必要があるかと思う。新玉津島神社の現在位置は鎌倉時代初期の著名な歌人五条三位藤原俊成（定家の父）の旧邸内の一部であって，俊成はここに和歌三神のひとつである紀州和歌浦の玉津島明神を勧請して崇敬したところである。「源氏物語湖月抄」，「枕草紙春曙抄」，「八代集抄」等数々の名著を既に世に送り，季吟としては最後の注釈書である「万葉集拾穂抄」の筆を起して間もない天和3年2月（1683）60才の時，人のすすめにより社司としてここに来住し，元禄2年に幕府に召されて江戸に移住するまでの6年間を，この神社に過したのである。

館内めぐり

図書の出生届け

~~~~~

受入掛

~~~~~

京大の図書館にある本はもちろん，どの学部，どの研究室にある本も，京大での生活を始めることに決定したら，必ず通らなければならないのがこの受入掛だ。京大とひとくちにいても遠くは九州阿蘇の火山研究施設，北海道の釧路，白糠の演習林等のようにその名を冠した施設は，日本中に散在している。このような施設もふくめて，すべての京大